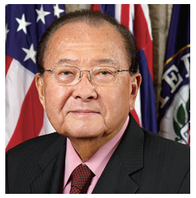
福岡県出身の著名人



故 ダニエル イノウエ　1924〜2012

元上院議員（米国）

祖父が現在の八女市出身の日系２世。ハワイ・ホノルル生まれ。第２次世界大戦で米軍に従軍し、陸軍大尉を務めた後、米国初の日系人議員に。上院議員として長く活躍し、上院仮議長として大統領継承順位第３位になった。

ジョージ・アリヨシ　1926〜

元ハワイ州知事（米国）

父が現在の豊前市出身の日系２世。ハワイ・ホノルル生まれ。陸軍通訳、ハワイ州議会議員、同副知事を経て、1974年に全米初の日系人州知事に就任。在任中の1981年に福岡県とハワイ州の姉妹提携を締結した。

テルミ・マツオ　1960〜

駐ボリビア・パラグアイ大使（パラグアイ共和国）

父が八女市出身で1958年に移住。パラグアイ外務省の外務官学校で学び、在ブラジル大使館一等書記官、アジア・アフリカ・オセアニア局長、駐チリ大使などを歴任。2015年に日系人初の外務副大臣に就任した。

福岡県の県人会事業について

移住から長い年月が経った現在、海外福岡県人会の多くは世代交代が進み、日本語や日本の伝統・文化を知らない世代が増えている。
そこで福岡県は、福岡や日本への関心や興味を高めてもらうことなどを目的に、
県人会会員の子どもたちや県内の大学生等との交流事業を展開し、次世代を担う子弟の育成を行っている。

福岡県移住者子弟留学生（県費留学生）

海外福岡県人会会員の子弟を、留学生として1年間受け入れ、県内の大学や専門学校等で専門知識や技能を修得すると同時に、福岡県の伝統・文化、産業、経済等の理解を深めてもらうための事業を1966年から実施している。これまでに400名以上の留学生を受け入れ、帰国した留学生は、学んだ知識や技能を活かしてそれぞれの国で活躍するとともに、県人会の活動に積極的に参加し、福岡県との交流に貢献している。

県人会担い手育成招へい事業

海外福岡県人会会員の子どもたち（小学校高学年）を、約2週間、福岡県に招き、福岡への興味・関心を高め、理解を深めてもらうための事業を2008年から実施している。

これまでに200名以上の子供たちを招へいし、子供たちは県内での様々な体験を通じて、自分のルーツである福岡を誇りに思い、帰国後は、日本語の勉強に一層熱心になったり、和太鼓グループの練習に参加するなどの変化が現れている。将来は、県人会活動の後継者として活躍することが期待されている。

海外福岡県人会青年派遣プログラム

福岡県内の青年を海外福岡県人会に派遣し、海外へ移住した先人たちの歴史、現地の社会情勢、ビジネス事情などを学ぶ事業を2015年から実施している。これまでに40名以上の学生を派遣し、参加した学生は海外移住した方々の苦労や日本・福岡に対する思いを聞くとともに、海外の青年等と交流を図ることで、チャレンジ精神やグローバルな視点を身に付けた。

今後、福岡県と県人会、そして日本と県人会のある国の懸け橋として活躍することが期待されている。

公益財団法人 福岡県国際交流センター
〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目1番1号 アクロス福岡8F　TEL：092-725-9204　FAX：092-725-9205
〈ホームページ〉http://www.kokusaihiroba.or.jp/　〈海外福岡県人会Facebook〉https://www.facebook.com/fukuoka.kenjinkai

過去から未来へ。私たちは「福岡」で繋がっている。

公益財団法人
福岡県国際交流センター
Fukuoka International Exchange Foundation

福岡県と海外移住の歴史

海外福岡県人会について

福岡県人としての誇りを胸に、移住国の発展に大きく貢献

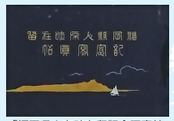
福岡県から海外への移住は、1885年（明治18年）にハワイへ移住したことにはじまる。その頃、農村の生活は苦しく、多くの人々が都市へ仕事を求めに行ったが、都市でもその労働力をすべて受け入れることは難しく、日本政府は海外へ移民を送り出すことにした。1900年代に入ると、移住先は、ハワイからアメリカ本土やカナダ、メキシコなどに広がり、さらにペルー、ブラジルなどの南米に移り、戦後には、ブラジルのアマゾン河流域、パラグアイ、ボリビアなどへの移住が始まった。戦前・戦後合わせた福岡県からの移住者数は、全国で4番目に多く、約5万7千人に達している。移住した人々は、言葉、気候、風土など全く異なる環境の中で大変な苦労をしながら、日本人としての誇りを持ち続け、その勤勉さや誠実さ、教育熱心さで非常に高い評価を得て、ブラジルでは「ジャポネース・ガランチード（信頼される日本人）」と讃えられるなど、移住国の発展に大きく貢献してきた。

同時に、ふるさと「福岡」へ深い愛着を抱き、福岡県人であることへの誇りを持ち続け、郷土の伝統や文化を守り、福岡県との連携を深めてきた。

1885年 ハワイ

明治政府とハワイ王国の間の契約による官約移民として1885年6月、粕屋町の渋田丈四郎らが移住。サトウキビ農園の労働者などとして働いた。2世の世代になると会社員など別の職に就く人が増え、やがて検事や弁護士、技師、医師といった専門職に進出した。

- ① ハワイ福岡県人会（1957年）
- ② コナ福岡県人会（1967年）
- ③ ハワイ島福岡県人会（1967年）
- ④ カウアイ福岡県人会（1985年）



「福岡県人布哇在留記念写真帖」（秦事務所、1924年発行）

ホノルルの央医院。移住者も専門職に進出していった

ホノルルのダウンタウンにあった太田理髪店

1890年代 米国本土、カナダ

1890年代以降、ハワイからアメリカ大陸への転住者が増加。1869年のシアトル航路、1898年のサンフランシスコ航路開設により、日本から直接、米国本土やカナダに進出。初期は鉄道保線、製材所、鉱山、農場、缶詰工場などの季節労働者として働いていたが、後に貯蓄を元に農場や商店、クリーニング店、理髪店、旅館や病院を営むようになった。

- ⑤ バンクーバー福岡県人会（1981年）
- ⑥ トロント福岡県人会（1980年）
- ⑦ レスブリッジ福岡県人会（1981年）
- ⑧ シアトル・タコマ福岡県人会（1907年）
- ⑨ 南加福岡県人会（1908年）
- ⑩ サンフランシスコ福岡県人会（1950年）

カリフォルニア州ロングビーチの富松商会

南加県人会会長を務めた岡幹平氏経営のイーグルホテル

カリフォルニア州ガーデナ、共同経営のいちご園

1910年 ブラジル

日本政府の移民政策により、コーヒー農園の契約労働者として1910年に第2回移民船旅順丸に便乗した21家族、79人が福岡移民として初めてブラジルの土を踏んだ。その後、戦前戦後を通じて6400家族、2万5381人が移住した。

1931年にスザノ市に入植した福岡県人を中心とした14家族によって福博日本人会が創設され、共同で土地開拓や道路建設を実施。子弟の日本語などの教育のための学校を造るなど日本人の村として発展し「福博村」と呼ばれている。

- ⑭ ブラジル福岡県人会（1930年）
- ⑮ マナウス福岡県人会（1959年）
- ⑯ ベレン福岡県人会（1969年）
- ⑰ トメアスー福岡県人会（1975年）

新校舎の落成式（1949年）

山藤家のトマト畑（1938年）

道路づくりから始まった「福博村」の草創期

1929年 コロンビア

ブラジルへの移住が全盛期であり、一家当たりの準備金が当時の大学新卒者年収の約2倍の1600円必要だったことから、コロンビアへの移住は希望がなかなか集まらなかった。第1回入植者5家族25人中3家族14人が福岡県人だったことから、2、3回は福岡県のみで募集。1930年に33人、1935年に100人が移住し、3回まで実施された計画移民の93%が福岡県人となった。

- ⑱ コロンビア福岡県人会（1978年）

1930年頃の入植地。家族総出で開墾作業した

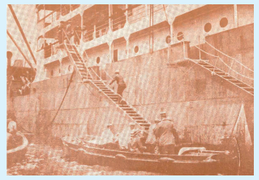
第三次移住者のパスポート

運動会相撲大会の様子（1937年）

1903年 ペルー

中国での利害関係の対立から、米国での対日感情が悪化。日本人移民排斥の動きが顕著になったことから、1899年にペルーへの移住が始まった。福岡県からの南米移住は1903年に神戸港から出帆したデューク・オブ・ファイブ号の400人が最初。農園の契約移民として働いたが耕地での労働は厳しく、風土病にかかるなど過酷なものだった。

- ⑪ ペルー福岡県人会（1959年）


船はペルー沿岸を航行し、各港で移民を降ろしていった

1906年 メキシコ

コーヒー栽培を目的に1897年に派遣された植民団35人が日本人のメキシコ移住の始まり。栽培は失敗したが、メキシコ政府はその後も鉱山や鉄道建設、サトウキビ農園者として多くの日本人労働者を受け入れた。福岡県からの43人が最初にメキシコに渡ったのは1906年。1949年までの日本人移住者3626人のうち福岡県出身者は406人と最も多い。

- ⑫ メキシコ福岡県人会（1952年）

福岡県人会婦人会（1952年）

福岡県人会新年会（1954年）

1908年 アルゼンチン

定住移民第1号とされるのは1886年の牧野金蔵だが、集団での渡航は1908年。日本からブラジルに向かった移民船「笠戸丸」に乗船していた791人中160人がブエノスアイレスで下船した。戦前は約5400人が移住しており、1940年頃は観葉植物栽培などを手掛ける日系人が多くいた。

- ⑬ アルゼンチン福岡県人会（1965年）

戦後は約12000人が移住。福岡県人会は1965年に誕生

観賞用の花などを栽培する日系人が多かった

1960年代 パラグアイ、ボリビア

日本最大規模の産炭地だった福岡県は1960年代、石炭産業の斜陽化、県内炭鉱の閉山により失業者対策が深刻に。その解決策の一つがパラグアイやボリビアなど中南米への移住だった。農業経験が乏しく、手探りの開拓生活だったという。

- ⑲ パラグアイ福岡県人会（1958年）
- ⑳ 在ボリビア福岡県人会（1973年）

トラクターを使って移住地を造成

アルトパラナ移住者第1陣を乗せて出港するあめりか丸（1960年）

パラグアイのアルトパラナ移住地の看板が原始林の中に見える

移住者による福岡県人会

- ㉑ ソウル博多会（1980年）
- ㉒ 大連福岡県人会（1998年）
- ㉓ 北京福岡県人会（1992年）
- ㉔ 在上海福岡県人会（1996年）
- ㉕ 台湾福岡県人会「梅友会」（2002年）
- ㉖ 香港福岡県人会（1977年）
- ㉗ ハノイ福岡県人会「ぱってん会」（2012年）
- ㉘ ホーチミン福岡県人会（2007年）
- ㉙ ヤンゴン福岡賢人会（2016年）
- ㉚ タイ国福岡県人会（1992年）

企業駐在員等による福岡県人会

- ㉛ 在マレーシア福岡県人会（2013年）
- ㉜ シンガポール福岡県企業会（2007年）
- ㉝ インドネシア福岡県人会「飛び梅会」（1999年）
- ㉞ マニラ福岡県人会（2002年）
- ㉟ デリー福岡県人会（2010年）
- ㊱ 英国福岡県人会（1980年）
- ㊲ オランダ福岡県人会（2006年）
- ㊳ 在仏福岡県人会（1999年）
- ㊴ シドニー福岡県人会（2015年）

海外福岡県人会とは？

福岡県を故郷に持つ移住者やその子孫たちが、親睦や交流を深め、互いに助け合いながら異国で生活していくために組織した団体。歴史の長い県人会は、今から100年以上も前に日本政府の移民政策により海外へ移住した方々によって組織された。また、日本企業などの海外進出が増えた近年は、福岡県出身の駐在員などが結成して活動している。

現在では、世界24の国・地域に39の県人会があり、福岡県が国際社会の中で、海外との交流を積極的に行う際に、福岡県とそれぞれの国・地域を繋ぐ懸け橋として、貴重な財産となっている。

海外福岡県人会との交流

海外福岡県人会世界大会

県人会同士の交流の場を設けるため、1992年より「海外福岡県人会世界大会」を3年に一度開催している。2019年は、6年ぶりに母県・福岡で開催し、世界21ヶ国・地域の29県人会から約350名が集まり、県内各地で様々な交流事業を行った。

第10回大会開催を記念した式典

県人会代表者による会議

県人会のふるさと巡り

各国芸能披露や屋台出店を行ったフェア